

第15回「森を育む」施策を検討する部会 会議録	
日 時	令和4年9月6日(火) 10時00分～12時00分
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室なみき17
出 席 者	岩本委員、奥井委員、関根委員、高橋委員、望月委員(五十音順)
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(傍聴0人)
議 題	1 「森を育む」施策の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>(事務局) それでは、定刻前ですが、新しい委員のご紹介などありますので始めさせていただきます。本日は、委員の皆様にはご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、横浜みどりアップ計画市民推進会議第15回「森を育む」部会を開催いたします。</p> <p>まず、本部会より、網代委員に代わりまして、関根委員が部会の委員となられています。</p> <p>それでは、本日の会議について報告いたします。</p> <p>本会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要項第5条、第2項の規程により、半数以上の出席が会議の成立要件となっております。本日、委員定数5名のところ、5名ご出席いただいております。会議が成立することを報告いたします。本会議ですが、当要項第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けております。</p> <p>また、本会議の会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は、各委員の皆様に、事前にご確認をいただきたいと思っております。なお、会議録には、個々の発言者の氏名を記載することとしておりますので、ご了承いただきたいと思っております。さらに、本会議において写真撮影をおこない、ホームページ及び広報誌等への掲載をさせていただくことも合わせてご了承願います。</p> <p>次にお手元の配布資料について、確認させていただきます。今日準備していますものは、次第、資料1「横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度報告書の抜粋版」、別紙2「横浜みどりアップ計画2021年度事業目標及び進捗状況」です。参考までに緑地保全制度のリーフレットを配布しています。お手元の資料はよろしいでしょうか。</p> <p>出席者の紹介もさせていただきます。本日、事業の所管をいたします緑地保全推進課とみどりアップ推進課が出席いたしております。事務局からは以上になります。</p> <p>それでは、今後の議事進行につきましては、望月部会長にお願い申し上げます。望月部会長、よろしくお願いたします。</p> <p>(望月部会長) それでは、次第の1番に移ります。森を育む施策の評価・提</p>

案について、事務局のほうからご説明をお願いします。

(事務局説明)

どうもありがとうございました。
ただ、一つとぼしてしまっているところがあります。
市担当者からのコメントですね。これもとても重要なところ
ですので、説明いただけますでしょうか。

(担当者コメントの説明)

ありがとうございました。
部会で報告される実績はみどり税充当事業のものとなっています。
評価・提案についてはよくまとまっていると思うので、こちらに追加があれば書き加えるということでよいかと思います。
皆様にご意見等伺っていきたいと思いますが、特に関根委員は初めて参加されたということで、様々な取組が行われていることに驚かれているかと思います。

(関根委員) 私の住んでいる青葉区は横浜でも一番緑が多いと言われてい
ます。子どもの頃から住んでいますが、昔は本当に緑が多かつ
た。

緑は大切だと思っています。人の心を豊にしますし、若い人
が前向きに物事を考えていくためにも必要だと思います。

みどり税について、時限的なもので、まだ続けるのかという
意見もありますが、森を育む事業について、こちらはどれくら
いみどり税が入っているものなののでしょうか。

(事務局) 全体事業費 502 億円のうち森を育む事業は 367 億円、みど
り税 72 億円と一番占める割合が高くなっています。

(関根委員) 市街地のなかで重要な緑の一つに、公園もあります。各地域
に地区公園がありますが、大きな公園では公園の半分くらいが
樹林地になっているものが多いです。民有地の助成のことも説
明がありましたが、今ある公園の管理もぜひしっかりと行って
ほしいと思います。

奈良山公園では、特に竹の伐採にも力を入れています。竹は
生え始めると急速に他の樹木を駆逐していってしまうので、市
の管理ができる場所はしっかり管理してほしいです。土木事
務所には竹を切った跡にサクラを植えてもらいました。経費の
関係でヤマザクラ 5 本程度ということでしたが。土木事務所には
よくやっていただいています。市が既に管理している公園
の管理に力を入れてほしいと思います。

最近気になっているのはナラ枯れ被害。なんとかする必要が
あります。

市街化地域は宅地化していってしまうので、その貴重な緑を
守っていくことは大切だと思います。宅地にしておいたほうが
税金の面で有利ということもあり、所有者がそちらに流れてし
まうことがあると思うので、緑化に進むような政策を検討して
いただきたいです。制度を考えるときには税の方とも連携が必

要だと思えます。

緑を守ることは重要だが、住宅地では保全に反発する人も出てきます。遊水池で5年くらい管理がされていなかったために木が大きくなりすぎてしまい、そこに野鳥がくるようになって、いざ木を切ろうとしたら、野鳥の写真を撮る人から反対されたということがありました。利便性と緑を守ることのバランスをとることが大事で、何を大事にするか、場所場所で考えることが重要だと思えます。

(事務局) 市内の樹林地では保全管理計画をつくって管理しているところがあります。

公園内のまとまった樹林地についても、みどり税の予算を土木事務所にお渡しして管理の一部を支援しています。青葉区では、保全管理計画を作っている樹林地はありませんが、まとまった樹林地のある大きな公園については、森づくりガイドラインという一定の管理方法を決めたものに沿って管理していただく場合に予算で支援しています。

(岩本委員) 緑を守るということで、みどり税を活用したみどりアップ計画は、非常にいい取組だと思えます。

森の利用者が増える中で、ゴミが特に目につくようになってきた。園路を外れて樹林地に入ったり、肩がぶつかるというような来園者同士のトラブルも増えています。

ゴミの問題は、ペットボトルや、今多いのはマスク。毎回だいたい10枚くらい見つける。人のマスクというのはいい気はしませんが、仕方なく拾っている状況です。

市民の森に来ていただいた方にもみどり税のことを話していて、多くの方からは、「みどり税いいね」と言ってもらっています。

「不測の事態」というところで、とても大事なことだと思いますが、まだ土地所有者への説明が足りてないと感じます。指定拡大のためにも丁寧な説明がもっと必要だと思えます。

ナラ枯れ被害は台風19号に匹敵するところではない被害となっており、台風19号でも多くの木が倒れましたが、ナラ枯れは全体に広がっている状況です。去年は枯れ枝の落下があったが、今年はこんな大きな木が幹から折れるということがありました。万が一、人がいたらと思うと恐ろしいです。

今の森の状態を見ていただいて、ひとことで維持管理といますが、その維持管理の中でも特に安全対策をやっているほしいと思えます。特に、公園や市民の森など人が入るところは対応が必要だと思えます。

私有地の樹林地のナラ枯れは放置状態となっていますが、所有者責任で管理するのは難しいので、これも行政からの支援がないとなかなか進まないのではないのでしょうか。

(事務局) ナラ枯れについては、全てに対応するのは難しいので、市としては、公園の園路沿いや外周など、安全を優先して対応しています。

私有地については、ナラ枯れに限らず、外周部などで第三者

の生命・財産に影響のある箇所のある危険な木の管理については維持管理助成制度を使って対応していただいています。

マナーについては、ここ数年、初めて森を訪れる方が増えている感覚があり、そういう方にしっかり伝えていくことが重要と考えています。市内5か所にあるウェルカムセンターでマナーなど森の基本的なところを知ってもらう取組を進めています。森の手入れをしていただいている愛護会の皆さんの紹介をして森のファンを増やしていきたいと考えています。

(岩本委員) 大きい森ほどナラ枯れの木が多いと思いますが、実際どうなのでしょう。

(事務局) 大きく育った樹齢が高い木ほどナラ枯れになるようで、危険な場所にあるものは優先的に切るようにしています。

(岩本委員) ナラ枯れの木にはカエダケという赤いキノコが生えるそうです。猛毒なのでその危険もあると思います。

(事務局) 園路をはずれて樹林地の中に入るとはナラ枯れ木が落ちてくる危険や、危険な植物に触れてしまうことにつながるということも発信していきたいと思っています。

(岩本委員) 県外にも広がっているところを見ます。仕事で千葉に行きますが、道の両脇全体でナラ枯れが見られるような状況でした。ナラ枯れに対応できるよう、特別な予算を組んだ取り組みを行うことはできないのでしょうか。

(事務局) 愛護会の皆さんからの情報や職員の巡回を通じて発見し、対処していきたいと考えています。

(高橋委員) ナラ枯れ被害対策は必要だと思いますので、検討していただきたいです。

樹林地の台風被害の写真がありましたが、報告書などでは台風被害の復旧後の写真も載せた方がいいと思います。

樹林地の維持管理助成の利用にもつながると思います。

また、森利用者のゴミ捨て等のマナーの話がありましたが、自治会・町内会のスポーツ推進委員や、青少年指導員、環境事業推進委員といった市の資源循環局にも協力してもらって市民の森等でゴミ拾いのイベントをやったらよいのではないのでしょうか。地域の協力を得ることで、みどりアップ計画の理解も広がって地域の方々も森を良くしようと思うのではないのでしょうか。

(望月部会長) 奥井さん、何かありますでしょうか。

(奥井委員) 維持管理助成について、台風についての拡充はどのような基準で対応しているのでしょうか。

(事務局) 警報が発令されているかが一つの基準となっています。その上で、倒木の処理等に対応できるようになっていますが、まだ

実際に適用したことがないので、実際に対応する際のことは考えなければいけないと思います。

(奥井委員) 皆様お話された通りだと思うのですが、緑だけではなく、水にも癒しがあると思うので、水と関連した緑地をフューチャーして散策などできるとよいと思いました。源流や水田と関連して森が開かれるといいなと思ったのですが、資料に書いてありましたね。

(望月部会長) 評価・提案以外に計画全体等についての意見等ありますでしょうか。

(高橋委員) 18歳以上が条件の森づくりボランティアについて、ぜひ中高生にも対象範囲を広げてしていただきたいと思います。

SDGs についての教育に力を入れている学校もあり、若い世代にも興味を持ってもらういい機会になりますし、次世代を担う若い世代にも関心が広がるのではないかと思います。

よこはまの森ニュースレターには、森づくり体験会実施後の樹林地の林床にどんな変化がもたらされたかなどの情報提供も行っているとあり、とても良い取組だと思います。

(事務局) ボランティアは、責任を伴うものなので、18歳としていただいています。次世代の育成という意味でも重要だと思うので、体験会の参加については対象を広くすることも検討していきたいです。

(高橋委員) 親子で参加の森づくりボランティア体験会はありますが、その後中高生になっていくと森づくりから離れていってしまうのでそこをサポートできるといいと思います。

(奥井委員) 人材育成については、今度広報部会で取材に行くので、現場でみてきたいです。

近くの市民の森で粗朶柵とは、という説明書きがあって、「はっぴー」もついていました。

(望月部会長) ありがとうございます。

最近、みどりアップのこのロゴを本当によく見るようになりました。

柱1については、これから維持管理が重要になってくるということだと思いますが、私は山梨県出身なのですが、森は3代先を考えるといます。

大黒柱になるような大きな木を切ったあとは植林し、これが育つのは3代先の頃と。

横浜の森も、長い目で考えることが重要です。

関根委員のお話にありました、何かすると反発があるという話ですが、批判があることでより良くなるとも言えます。

ただ全員賛成ということでなく色々な意見があることでより良いものになっていきます。

それでは、森を育む施策の評価・提案については以上とさせていただきます。

	(一同) どうも、ありがとうございました。
資 料 ・ 特記事項	次第 資料1 横横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021年度報告書(案)【抜粋】 別紙1 横浜みどりアップ計画[2019-2023] 2021年度事業目標及び進捗状況